

始平公造像記



亡父神飛三

※昇試随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

一字書（九月二十二日締切）

課題

剣

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

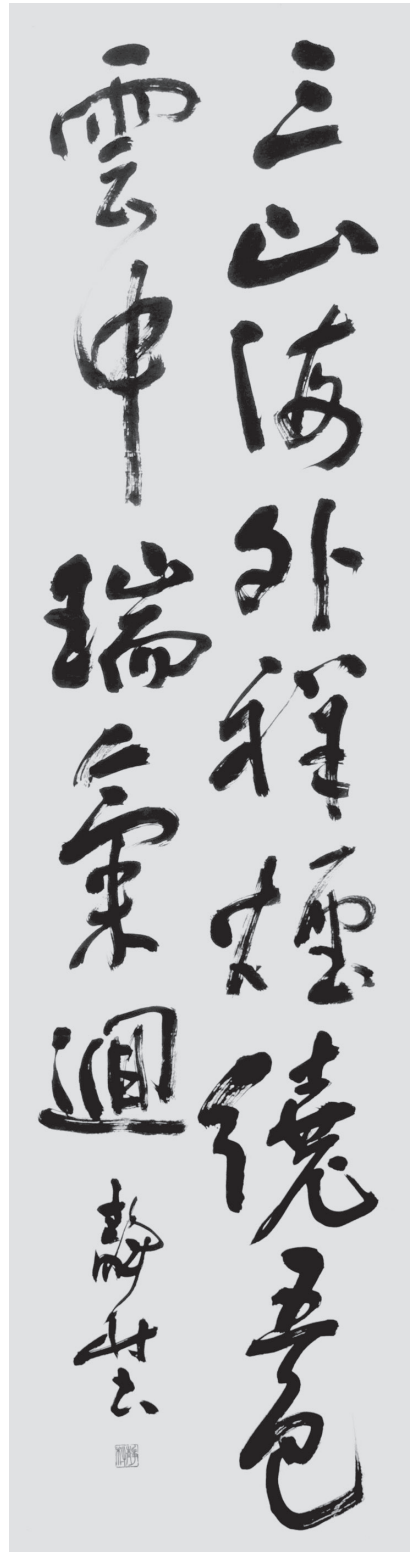
字典の紹介

（主に毛筆用）

- 『新書源』しんしよげん 出版社 二玄社
A5版 一四二六ページ
定価 九、七九〇円（税込）
 - 『五體字類』ごたいじるい 増補改定版
出版社 法帖図書出版 せいとう 西東書房 B6版 七六〇ページ
定価 三、八五〇円（税込）
- 昇試作品は字典で十分確認してからご提出を!!

A
鈴 木 静 村 先 生 書

三 山 海 外 祥 煙 繞 五 色 雲 中 瑞 氣 迴 (廖道南)
三 山 海 外 祥 煙 繞 五 色 雲 中 瑞 氣 迴 廻 (鈴木静村)



B
高 橋 香 樹 会 長 書

三 一、二画ツンツンと突き筆。煙 墨継ぎ。廻 「延繞」を「之繞」で書くことが多い。潤渴・太細・遅速など織り交せて、「自分」を打ち出して。中 渴筆になるも線に強さ。瑞



文字の大小・行の流れを意識した作としました。「三」は右に移動。「山・海」と左へ「海」の収筆を延ばし、余白を大きくとる。「煙」は小さく右へ。「繞」で横幅。二行目の「雲・瑞・氣・廻」は、一行目のあいている所に横画を出すといった行の出入りにも意を用いたい。墨継ぎは「繞」と「瑞」。

訳：海上にあるという三神山には、めでたい雲がたなびき、五彩の雲のたなびく処にもまためでたい気がめぐっている。

予告 (十月二十二日締切) 月到天心處 風來水面時 一般清意味 料得少人知 (邵康節)

◆注 意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

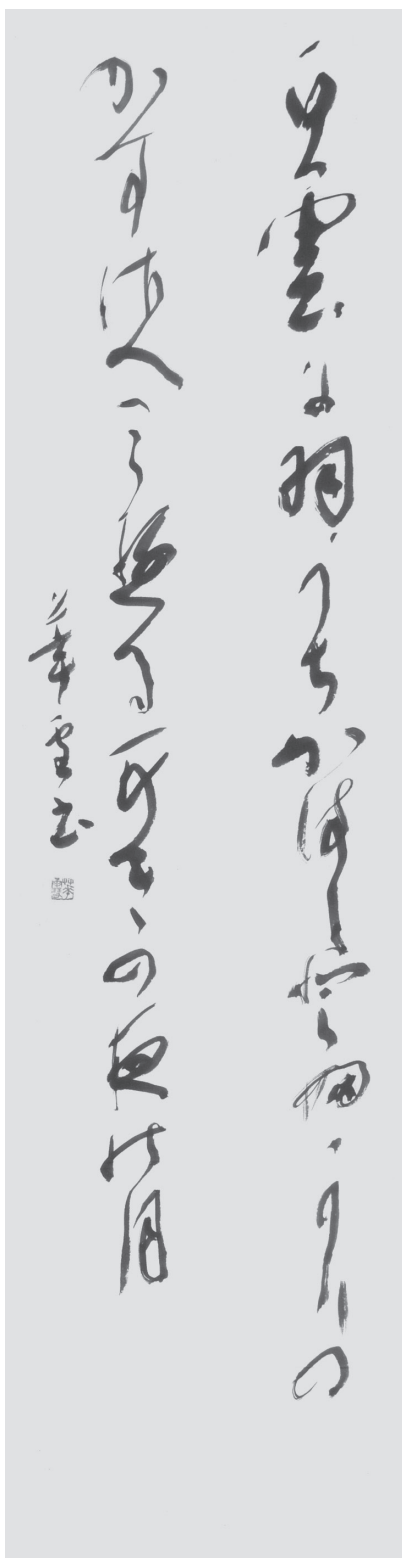
昇試第一部かな課題

(九月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

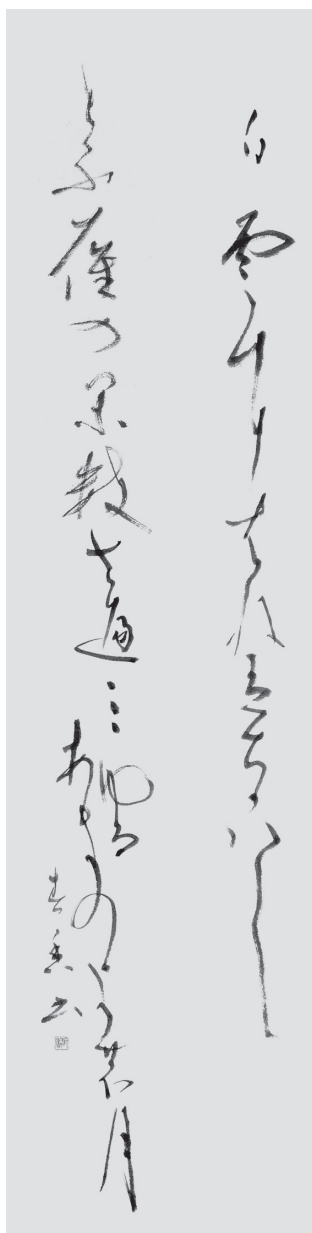
白雲に羽うちかはしとぶ雁のかずさへ見ゆる秋のよの月(古今和歌集 よみ人しらず)
白雲^に羽うちかはし登婦^{とふ}可^かりのかす佐^さへ三遊^みるあきの夜能^の月



B

石原春香先生書

白雲^に耳者^{には}ね有^うち可^か八^はしとふ雁の閑数^{かす}さ遍^へ三^みゆるあ支^きのよ農^の月



学び方

歌意…白雲に翼を交えて飛ぶ雁。その数が数えられる程くつきりと見える秋の夜の月の光よ。

秋の空に雁がとぶ様を想像しながら散らし方を考えてみました。「とぶ雁の…」の渴筆部分、しめくくりの「あきの夜農月」でさらりと表現してみました。

古今和歌集は、六歌仙、貫之等撰者の歌、約千首を収め、その歌風は、調和的で、優美、繊麗である。
「白雲に」の歌は、読み人知らず、題知らず。
「月に雁」と言えばこの歌、として多く知られている。

予告 (十月二十二日締切)

秋雲雀草^{あきひばりくさ}の穂^ほすりてとぶなべに野の水たまりにぶく光れり (川田順)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試第二部漢字課題 (九月二十二日締切)



勝間凜華先生書

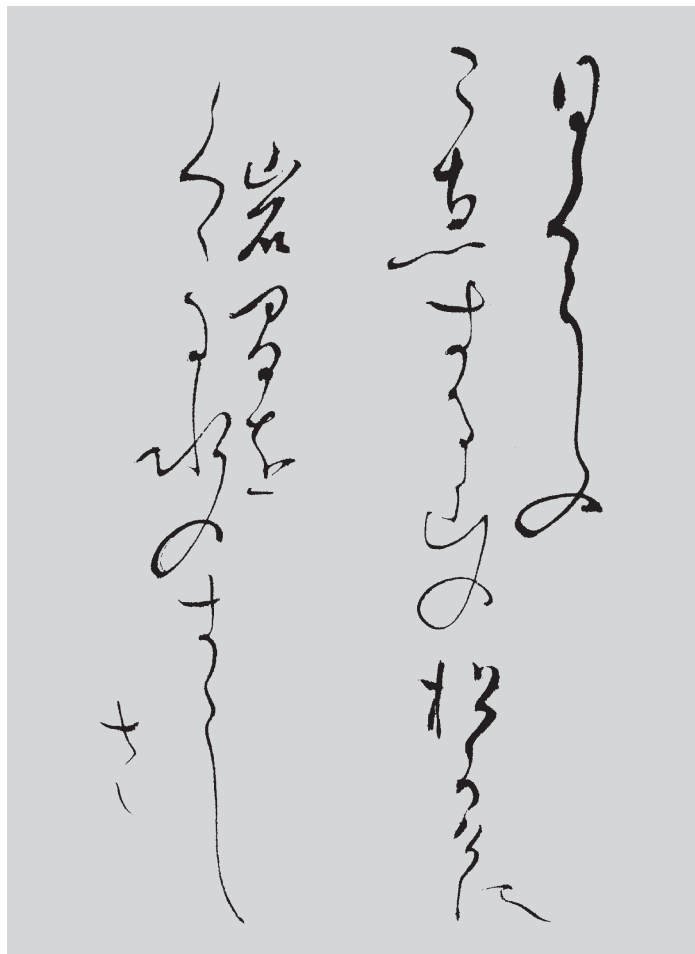
歎息未應閑 (李白)

嘆息すること未だ応に閑ならざるべし

訳：せつない嘆息が、とぎれることもないだろう。

高塚竹堂先生書

ひぐらしの声する山の松かげに岩間をくぐる水のすゞしさ
日久らしのご恵する山の松可介に岩間をくぐる水のすゞしさ



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試第三部かな課題 (九月二十二日締切)

昇試第三部漢字課題 (九月二十二日締切)

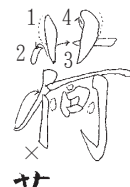
平岡華雪先生書

風笛荷花の外（施閨章）

訳：風に伝えられて蓮のひらくあたりから笛の音が聞える。

〈草冠について〉

「荷」「花」二つの草冠。この書き方のポイントは一画・四画の頭部を高く突き出すこと。×印のように頭を引くと姿勢が悪く見える。



風笛荷花の外

(10月22日締切)

荒庭白露秋 (張説)

平岡華雪先生書

花すき寺あればこそ鐘が鳴る（来山）

花すき寺あ連はこそ楚可ねか那る

〈要留意の用筆〉

「花すき」の「く」（踊り字）、「可ねか那る」の「可」が入った語句は抑揚のリズム用筆をスムーズにいくまでくり返し練習してください。

変体がな

那... 連... 楚... 可... ね... か... 那...

花すき寺あればこそ鐘が鳴る

(10月22日締切)

我袖にきてはねかへるいなこかな (子規)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇 試 随 意 参 考

小林伸葉先生書

黄花香淡秋光老 落葉聲多夜氣清（張棟）
黄花香は淡に秋光老い、落葉聲は多く夜氣清し。

黄花香淡秋光老 落葉聲多夜氣清

伸葉

訳：黄菊の花は香もうすれて秋景は老いた、それに落葉の聲は頻りに多く夜氣は清い。

向山朴花先生書

白露の色はひとつをいかにして秋の木のはをちぎに染む覧（古今和歌集 藤原敏行朝臣）
白露の色盤ひとつ乎い可るして秋能木のは越千々に染むら无

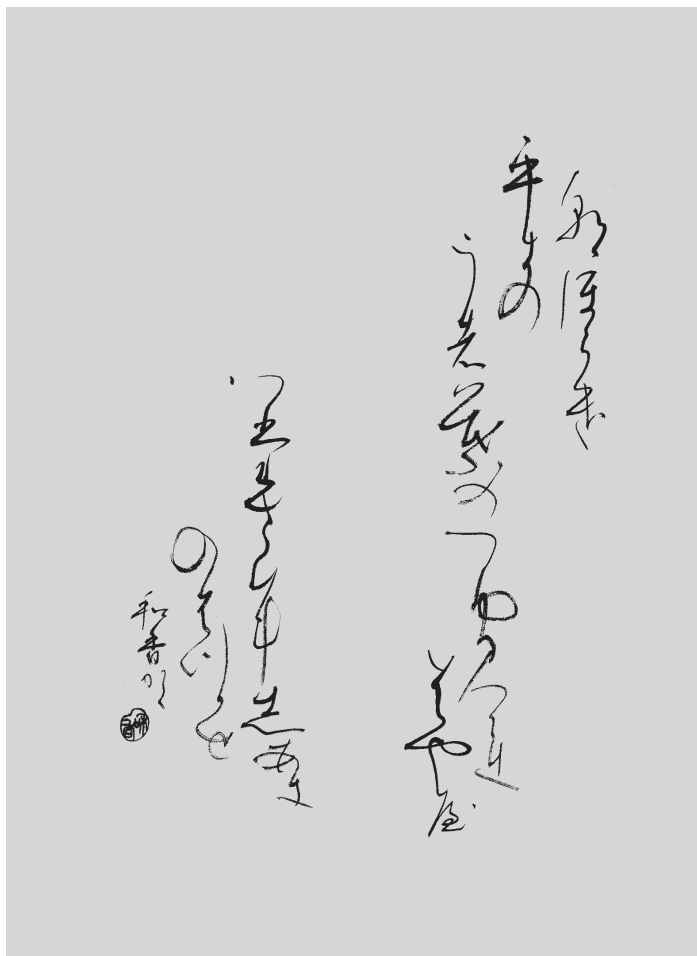
白露の色はひとつをいかにして秋の木のはをちぎに染む覧
秋能木のは越千々に染むら无

歌意…白露の色は一つなのになあ。どのようにして秋の木の葉をとりどりの色に染めるのだろう。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試随意参考

訳：夜あけ方、萩の上葉に置く露を見ていると、少し肌寒く感じられる。秋の初風が吹いて。



小林和香先生書

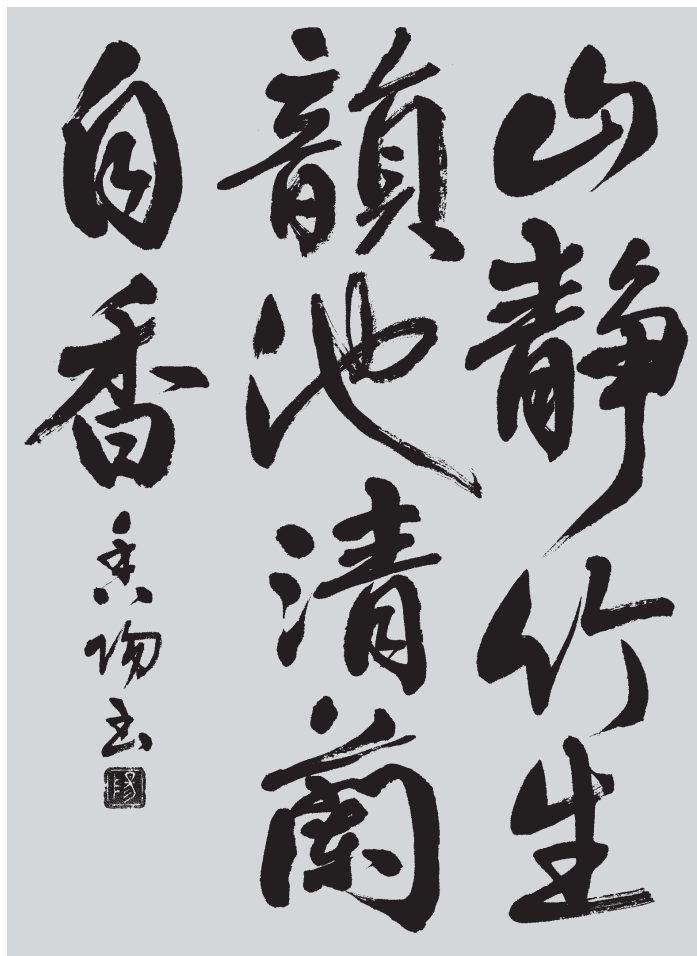
訳：山は物静かにして竹はすずしい声を生じ、池は水清く蘭も自然に香ばしい。

朝ぼらけおぎの上葉の露みればやはださむし秋のはつ風（新古今和歌集）
 朝ぼらけ遺平支のう者葉のつゆ見連者や屋八堂さ牟志あ支の者川可せ
 曾禰好忠

昇試随意参考

福田香陽先生書

山静竹生韻 池清蘭自香（李彌遠）
 山静に竹韻を生じ、池清く蘭自ら香し。



硬筆部課題参考

(九月二十二日締切)

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)

ある朝、庭の萩が咲いた。白と赤の
二株である。手入れもしていない菊
が一輪あかるんでいる。

ときどき、まっさおな空が一瞬姿を
あきらめ、また消えていく。水田の稲
も畑の大豆も風を浴びてゆれ動く。
台風が来るのだ。

課題1 (初段以上)

ときどき、まっさおな空が一瞬姿を
あらわし、また消えていく。水田の
稲も畑の大豆も風を浴びてゆれ動く。
台風が来るのだ。

『はるかな町』 三木 卓

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
ペンまたはボールペン(黒色)
- (2) を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)
- (4) はじめて出品される方は私製の
紙(3×4 cm位に) 次の4項目
を記入して作品左下隅に貼って
出品して下さい。①硬筆部②支
部名または都道府県名③氏名ま
たは雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段格以下)

ある朝、庭の萩が咲いた。白と赤の
二株である。手入れもしていない菊
が一輪あかるんでいる。

『秘すれば花』 立原正秋